

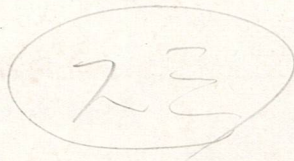
ICHIKYO  
市響

1978. 6. 11

P.M. 7:00

市川市民会館

126



交響楽の夕べ  
PROGRAM  
No. 126

主催 市川市教育委員会 市川交響楽団協会  
千葉県音楽振興協議会 千葉交響楽団協会  
後援 京成電鉄株式会社

市川交響楽団演奏

金子建志指揮

管 弦 楽

大学祝典序曲 .....ブラームス

ピアノと管弦楽

ピアノ大 楽 勝 美

ピアノ協奏曲 第1番 .....チャイコフスキー

アレグロ・ノン・トロツポ・エ・モルト・マエストーソ

アンダンティーノ・センブリーチェ

アレグロ・コン・フォコ

————— 休 憩 —————

交 響 楽

交響曲 第7番 .....ベートーヴェン

第1楽章 ポコ ソステヌート—ヴィヴァーチェ

第2楽章 アレグレット

第3楽章 プレスト—アツサイ メノ  
プレスト

第4楽章 アレグロ コン プリオ

皆で歌いましょう

3部輪唱「歌声ひびく」.....シュルツェ

丹 治 汪 作詞

# 市川交響楽団 団員

コンサートマスター 二宮 伸雄

○印 パートチーフ

[第1 ヴァイオリン]	沢田 健	[オーボエ]	[トロンボーン]
石井久雄	鶴島章子	高山公孝	太田一之
小川和美	藤枝通子	○秦俊夫	○小池達美
小川起恵子	星乗昭	坂逸郎	柴田孝一
島貫俊秀	○横田行雄		津田雄二郎
永田匡	飯島一彦	[クラリネット]	上村茂隆
二宮伸雄	本田一	○池田八十二	
福井康祐		伊藤順夫	[チューバ]
星千鶴子	[チェロ]	谷村匡一	高橋純一
前原共子	小坂克志	時田雄	佐々木一芳
○松山和子	植草寛之助	永田豊	
三原明人	立原実	半藤嗣人	[打楽器]
吉岡一郎	○田頭扶		岩橋正治
中野雄太郎	中沢健	[ファゴット]	○内藤弘之
石田信吾	福原耕二	金坂哲	藤井聡
	古川康一	福田陽	
[第2 ヴァイオリン]	山口勝規	○米原光夫	[ハープ]
柳沢英伸	横田朝之学	菅谷泰一	早川利恵子
木佐貫秀弥	松田		
熊谷信昭		[ホルン]	[ピアノ]
森本浩一	[コントラバス]	○越塚康史	横田光代
中森浩子	鈴木孝治	小林秀之	
沢田整	鈴木達郎	志賀恒夫	[名誉団員]
深沢武夫	高柳亘宏	高橋美枝子	坂逸郎
○福原祥子	飛田正男	高橋隆一	江口朝彦
村上葉子	○牧野一男	野崎勝	似鳥健彦
吉川多津子	村上信乃	江口正樹	早川正昭
村田美千子	薬丸洋秋		保科洋
松延裕子		[トランペット]	八木良弘
武藤恵理子	[フルート]	○桑村益夫	
	岡本恂三	山本昭	[団友]
[ビオラ]	木村純一	佐藤宗男	碩美穂子
大豆生田 稔	木村真諭紀		
齊藤十一郎	○竹中靖		
荒井淳子	広瀬茂樹		

## 市川交響楽団 団員募集

弦楽器各パート(第1、第2バイオリン、ビオラ、チェロ、ベース)  
音楽を専攻され、家庭に入られた主婦の方、大学オーケストラでの経験者を特に歓迎します。

※お問い合わせ 0473 (23) 1619 市川交響楽団協会事務局

## 予 告

文化庁助成

### 第6回

### 全国アマチュアオーケストラ フェスティバル茨城大会

7月30日(日)午後2時

茨城県民文化センター

シェスタコビッチ 交響曲5番

シューベルト 未完成交響曲

演奏 JAOフェスティバル交響楽団

JAOジュニア交響楽団

指揮 外山雄三 外

入場料 1,000円

## 市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来28年の歩み続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体であります。利益を得る団体でも、ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブでもありません。自分達の喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体でありまして、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在であります。又、当協会には、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラの4楽団によって組織されております。

会 長	泰道 照山	
理 事 長	村上 正治	
理 事	今井 正	川崎 千春
	岸本 義一	古賀 米吉
	渋谷 寿光	高橋 国雄
	杉本郁太郎	村岡 元一
監 事	富田 英夫	泰道 三八
評 議 員	飯島藤十郎	大久保康雄
		他23名
顧 問	出光 昭介	白井 莊一
	片岡 直令	坂斎梅三郎
	友納 武人	鳥海 一郎
	村岡 信一	三木 春逸
	渡辺一太郎	他23名
参 与	伊藤恒太郎	大木 正興
		他 110名

事務局長 熊谷 信昭  
事務局次長 伊藤 順夫  
会 計 横田 朝之

## 会員募集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会員の事で、会員は案内通知を受けますし当協会主催の行事には入場無料、特別演奏会は半額です。

維持会員 年 2,000円

賛助会員 年10,000円以上

## 団員募集

入会金 1,000円 会費月 500円

各楽団を兼ねる事が出来る

### 市川交響楽団練習

市川小学校講堂(国道沿い)

市川駅北口より国道西へ徒歩4分

京成真間駅西口より徒歩8分

毎土曜日午後6時20分

### 市川交響吹奏楽団練習

宮田小学校講堂(北越通り)

市川駅南口より東へ徒歩3分

京成真間駅南口より徒歩8分

毎金曜日午後6時30分

### 市川混声合唱団練習

自然幼稚園(消防署本部裏)

市川駅北口より国道東へ徒歩3分

京成真間駅東口より徒歩2分

毎木曜日午後7時

技量は問題にしません

### 市響ジュニアオーケストラ練習

市川市社会教育会館

市川駅北口より国道西へ徒歩3分

毎日曜日午後1時より4時まで

事務局 市川市新田2-33-10

TEL 0473(23)1619



## 市川交響楽団

この楽団は、千葉交響楽団協会に所属し、同じ趣旨で活動している市川交響楽団協会の中心的楽団である。団員数は百名で、昨年が創立25周年に当り、7月にカバレフスキー「道化師」ブラームスのバイオリン協奏曲、10月に安川加寿子氏とモーツァルトのピアノ協奏曲や、アマチュアでは難曲のブルックナーの第7交響曲を演奏し、その他県内を数箇所巡回演奏している奉仕団体である。この10月にはマーラー第1交響曲「巨人」も演奏しました。姉妹楽団に市川混声合唱団や、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラがあり、互いに助け合って演奏活動をつづけている。略称を市響「いちきょう」と言う。

団長	村上 正治	副幹事長	牧野 一男
幹事長	横田 行雄		
(運営幹事)	広報担当 桑村 益夫 (30周年記念準備委員長)		
	企画担当 竹中 靖	渉外担当	越塚 康史
	会計担当 小坂 克志	竹中 靖	
(楽団幹事)	庶務担当 星 乘昭	運営相談役	天野 晶吉
	インスペクター 半藤 嗣人		
	常任指揮者 金子 建志		
	コンサートマスター 二宮 伸雄		
	ライブラリアン 高柳 亘宏	越塚 康史	
	ステージ楽器 谷村 匡一	高橋 隆一	

### ~~~~~ 今年度活動予定 ~~~~~

昭和53.	4.29	市川市美術会開会式賛助	於市川市民会館
	5. 5	第125回市響「第3回ジュニアオーケストラ演奏会」	於市川市民会館
	6. 4	県移動芸術劇場「交響楽の集い」	於神崎中
	11	第126回市響「交響楽の夕べ」	於市川市民会館
	25	市内小中学生のための管楽器クリニック	於市川小
	7. 9	県移動芸術劇場「交響楽の集い」	於船橋市八木ヶ谷小
	7.23.29~30	第6回アマ・オケ 「フェスティバル」参加	於茨城県民文化センター
	8.27	第127回市響「納涼コンサート」	於市川市民会館
	9.17	県移動芸術劇場「交響楽の集い」	於佐原四中
	10.22	第128回市響千葉県芸術祭参加「市川交響楽団コンサート」	於船橋市民文化ホール
	11. 5	小学生のための交響楽	於浦安南小
	12	第129回市響市文化祭参加「合唱の集い」	於市川市民会館
	12.10	第130回市響市文化祭参加「ファミリー交響楽コンサート」	於市川市民会館
昭和54.	1.15	市川市成人式「祝賀演奏」	於市川市体育センター
	2.16	市民芸術講座「洋楽の部」	於市川市社教会館
	3.18	第131回市響「室内オーケストラの午後」	於市川市民会館



### 常任指揮者 金子 建志

市響—金子建志。その結びつきは1972年に始まる。73年に常任指揮者。以後一貫して、市響は彼の棒のもとに成長していった。

我々が要求した一見無謀と思えるレパートリーも彼の努力と熱意でこなしてきた。彼あつてのことである。ステージで振ることは勿論、練習場でのトレーナーとして、あくことなき音の探求者として、毎土曜日の夜、そこに彼の姿がある。オケの仲間達が何かの都合で出られなくとも一。出席率No.1 オケの皆さん恥ずかしくないか。と云うわけで、我々にとってまことに得難い人であります。この有難味を我々団員はふと忘れることも多々あると反省するわけです。彼との練習でのつきあいは楽しいものです。我々に絶対、強制はしない。じっと我慢の子、あるいはその間、彼自身の心の葛藤があるのかも、その証拠に時々、メガネの奥から強烈な皮肉をとばす。我々アマチュアのなんたるかをわきまえてくれています。秋にはマーラーの大作「巨人」。彼は練習で、何くわぬ顔で乱れぬ棒を振ってくれるでしょう。

宜しくね 建志さん。

余り知られていない番組ですが、NHKFM千葉で、毎週1回（主として第3土曜日）夕方5時から、クラシックリクエストと云う番組を担当しています。師匠（柴田南雄）ゆずりの博学（雑学？）はしばしば傾聴に値します。尚、他に、NHKFMの全国ネット20.05分からのクラシックアワーにも度々出演されています。本年1月に京都会馆における京都交響楽団の一連の青少年コンサートに出演されタクトを振りました。千葉高から東京芸術大学楽理科卒。作曲を柴田南雄。指揮を斉藤秀雄の各氏に師事。現在尚美音楽院講師も務めています。住所は習志野市藤崎3-28-11

### 大 楽 勝 美

勝美さんは昭和31年生れ、昭和47年に芸大附属高校に入学、昭和50年に同大学器楽部ピアノ科に進学し、現在同校の4年生です。伊藤巖氏、伊達純氏に師事して将来を嘱望されている青年ですので、今回出演をお願いしました。楽しい演奏になると存じます。ご期待下さい。

県移動芸術劇場「交響楽の集い」 千葉県教育委員会と開催地委員会との共催で、広く純音楽の楽しみと理解を深めて貰うことを目的とし、社会教育、文化活動の向上を目指し、青少年、一般を対象とした交響楽コンサートで、市響は創立以来一貫して情熱を傾け、県内くまなく廻り、既に90余回になります。

コーン管楽器

米國コーン管楽器 エキセルシアア・アコーディオン日本総代理店

# CONN

# 株式会社 谷口楽器

《カタログ送呈》

東京都千代田区神田駿河台1丁目8番地  
電話 (291) 2711 ~ 3番

## 曲 目 解 説

### 「大学祝典序曲」

ブラームス

ブラームス(1833~1897)は、1880年にこの「大学祝典序曲」OP 80を、その前年に、ブレスラウ大学から名誉博士号を贈りたいとの、申し出があり、それを受けるとともに、それに対する感謝の意をこめて作曲しました。そこには四曲の学生歌のメロディがとりあげられています。ブラームス自身もこの曲を「学生歌の、スッペ風の接続曲」と言っていますし、又「悲劇的序曲」の深刻さと対比させて、「笑いの序曲」とも言っています。しかし「接続曲」風の多主題の作品であるにもかかわらず決して通俗的な散漫さにおちこまず、ごく自然で、ひきしまった主題の連結をみせている点では見事な構成ですが、反面「笑い」に徹しきれないブラームス自身の気まじめさがうかがわれます。

ここに使われている学生歌は、ブラームスがかって、ゲッティンゲンで接した学生達から聞きおぼえていたもので、次の四曲のメロディをとっています。

「われらは、すばらしい学び舎をたてた。」 「国の父」 「新入生の歌——かの高みより来たりしもの。」 「だから愉快にやろうじゃないか。」

曲はアレグロ、ハ短調で、以上の学生歌のほかに、曲頭に出る主要主題部のいくつかの要素を生かして、一応ソナタ形式風に、提示部、展開部、再現部、を備えています。しかし、その間に、上述の学生歌がさまざまにあしらわれていますから、構成上重苦しさは感じられません。その上、それぞれの学生歌が、配慮のいき届いた楽器の生かし方で、出てくるたびに、それにふさわしい表情であられます。「新入生の歌」の楽しさがこの曲のユーモラスな面のクライマックスのようです。

### 「交響曲 第七番 イ長調」

ベートーヴェン

第七番はよく第八番と対で語られます。ベートーヴェンは、スケールの大きい第七番を「大交響曲」、小じんまりした「第八番」を小さい方と愛称していて、どちらかと言うと、小さい方の曲に愛着を感じていたと言われていますが、世評はその反対で、大きい方の第七番に、人気が集まり、ベートーヴェンを大いに残念がらせたということです。

第七番の当時の評判はまことに圧倒的なもので、1813年12月8日、ウィーン大学の講堂で催された発表演奏会の時から、第二楽章のアレグレットが、反復演奏を要望されるほどの人気を呼びました。このアレグレットの楽章は今日も「不滅のアレグレット」と呼ばれ、全曲中の最上の聴きどころとして愛好されています。

ワグナーは第七交響曲を「舞踊の聖化」と呼び「メロディーとハーモニーは、あたかも人体組織のごとく、活気あるリズムの形象をもってよどみなく流れ……」と、称えています。本当にこのことばのように、それ以前の交響曲のどれにも増して、リズムが支配的な要素を占め、通例の歌唱風な緩徐楽章に代えて律動的なアレグレットが第二楽章に置かれています。第一楽章の長大な序奏部も、ヴィヴァーチェの主部も、それらの真の主題は一貫したリズム型に求められると言っても言いすぎではありません。

第七番、第八番の両交響曲は、第五番、第六番と、作曲年代に3~4年の隔りがあり、その間に、彼の耳の病はますます悪化の方向をたどったばかりでなく、ウィーンはナポレオンのフランス軍のために自由を奪われ、地下室に難を避けたベートーヴェンは、轟く砲弾に耳をおさえ、「不安で野蛮な生活、周囲は不幸ばかり……」と書きしめています。このせいか、ベートーヴェンの作曲の量は減少し、同時に彼の視野は内面に向けられ、音楽の純粋性をより強く求めたようです。

第一楽章はポコ・ソステヌート(イ長調4分の4拍子)の極めて序奏部を持って開始され、それ自体二つの主題を備えて独立の楽章に近い様相を呈しています。しかし楽式は自由でそのまゝ、主部のヴィヴァーチェ(イ長調8分の6拍子)に接続します。最後の10小節は序奏部のコードであると共に主題のリズムを導き出す準備の部分にもなっています。

第二楽章は、変奏曲にトリオを加えた自由な三部形式によるアレグレット(イ短調4分の2拍子)で「不滅のアレグレット」と呼ばれる名高い楽章です。

第三楽章はジークにも似たプレスト(ヘ長調4分の3調子)のスケルツォで、南部オーストリアの巡礼歌を主旋律とする愛らしいトリオ(アッサイ・メノ・プレスト、ニ長調)が、その間に二度入って複合三部の、大スケルツォ形式を構成しています。



第四楽章はソナタ形式によるアレグロ・コン・ブリオ（イ長調4分の2拍子）の力と歓喜が一貫となった熱狂的なフィナーレで、“酒神——バッカス——の狂乱”ともたとえられています。

# AULOS®

エリートシリーズ  
テノール (No.311)



音楽性を培う確かな音。

品名	イギリス式	ドイツ式	定価
テノール	No.311	---	5,500
アルト	No.309	---	1,600
ソプラノ	No.203	No.202	620



**ヤマハ楽器製造株式会社**

東京本社 〒174 東京都板橋区大原町41番地

TEL. (960)8301(代表)

